

## たかが温泉、されど温泉

- 🔥 「源泉100%」は、全旅館の1%
  - ・天然ウナギを食する機会は0.38%。温泉宿14,380軒の1パーセント。
- 🔥 本物温泉の条件
  - ・源泉100パーセントかけ流しであること(循環はもってのほか)
  - ・加水しないこと
  - ・消毒しないこと
  - ・清潔が保たれていること(こまめな清掃、冬場の加温は可)
- 🔥 源泉とは
  - ・自然に地下から湧出した「自噴泉」
  - ・ボーリング掘削による動力で汲みあげる「動力温泉」
  - ・温泉供給会社から、リットル単位で購入する源泉
  - ・温泉旅館組合が源泉を管理し、客数に応じた湯量を配湯
  - ※源泉と湯船までの距離があればあるほど、湧出から時間がたてばたつほど温泉は変質し、効果は落ちる
- 🔥 温泉行政
  - ・「温泉法」は昭和23年制定のザル法
  - ・縦割り行政で「温泉法、源泉」は環境省、「宿泊施設」は国土交通省、「レジオネラ菌対策」厚生労働省が管轄。その他消費者庁、観光庁等も、どこも責任逃れ
  - ・温泉の掘削、採取は都道府県知事の許可制
  - ・今後予想されるのは地熱発電とのトラブル
- 🔥 テレビや新聞は本当のことを書けない
  - ・一部の自治体にとって観光産業の税収が一番多いのは温泉旅館。その中で一番多いのは固定資産税。旅館がつぶれると地方財政が成り立たなくなる。
  - ・大方の温泉学者、温泉評論家もウソの情報を平気で流している
- 🔥 熱いお湯を我慢できないお客の責任
  - ・客により適温が違い、最近増えている女性の場合低い温度を要求する
  - それぞれの要望に答えるのは至難
- 🔥 温泉を清潔に保つ苦労と消毒剤
  - ・温泉は一日一回必ず清掃しなければならない。人間の体から出る雑菌が増殖する
  - ・掃除とはお湯を全部抜いて新しい湯が入らない状態にして強力な油圧式

掃除機で何度もごしごしこする

・大雑把に言えば10人ぐらい入れる大きさの湯船でお湯を抜くのに1~2時間、掃除に1~2時間、よほど湧出量が多いところでもあらたに湯船を一杯にするのに、また1~2時間。合計で5~6時間。湧出量がちょぼちょぼの温泉だったらまる1日かかる

・掃除の手抜をぬこうと思えば、タワシで2~30分でもざっとこすって、あとは塩素を入れて水を流すことだって出来る。このような旅館が増えている

### 🔥怖い新型消毒剤

・厚労省が頭を痛める清掃問題。レジオネラ菌に神経とがらす。実際いまの温泉は汚れている

・塩素消毒は匂うのですぐわかる。しかし最近では塩素臭がしない巧妙な消毒剤がすごい勢いで普及している。しかもこの消毒剤には発がん性の疑いが強く持たれている。お役所はあえて検証しようとしな

・レジオネラ菌の発生を恐れるあまり、従来の塩素消毒では用をなさないというので、国立感染症研究所の主任研究員のもとで開発されたのが「塩素化イソシアヌル酸」という塩素系強力消毒剤だ。効果が持続しコストも割安

### 🔥本物の温泉探し

- ・共同浴場の良いところ
- ・歴史ある温泉地
- ・山間と川浴い
- ・秘湯の一軒宿
- ・大型施設は避ける
- ・日帰り温泉と公共施設は循環と塩素漬け多い
- ・高い料金は疑え
- ・温泉の情報開示に熱心なところ
- ・温泉分析書の確認
- ・塩素臭とオーバーフローのチェック

### 🔥我流（画竜点睛？）の宿選び

- ・源泉かけ流し（足元湧出が最高だが極めて稀）
- ・飲泉可の湯
- ・単純泉よりにごり湯
- ・小ぶりの風呂（湧出量に分相応の大きさ）、大浴場は循環・加温・加水が多い。
- ・屋上大露天風呂はナンセンス
- ・部屋数 10 以下

- 温泉街の宿より山奥の一軒宿、温泉街は景色が悪く、値段が高く、湯は給湯、料理は質より量のところが多い
- 一流老舗旅館より、民宿、ロッジ、ペンションにも良いところあり
- 日帰り湯をやっていない宿が好ましい。きわめて少ない。
- 大都市から遠い温泉地、値段が比較的安い
- こだわりの料理、きめ細かい配慮（温泉宿のコース料理ではなく）
- 清潔（部屋、寝具、洗面所、風呂、お食事処など）
- 清掃、お湯の入れ替えは毎日が好ましい
- 美人若女将は要注意（必須条件にあらず）
- 口コミランキング 4.5 以上（5 点満点）
- 宿泊料金 15,000 円以下
- 女将と話の出来る宿

以上



2012.2

菅田一郎(RSK-OB) 記